

こころ医療福祉専門学校佐世保校  
平成30年度第1回教育課程編成委員会議事録

【日時】平成30年8月26日（日）13:30～14:20

【会場】こころ医療福祉専門学校佐世保校 2階 会議室

【委員】出席：田中秀樹（長崎県柔道整復師会佐世保支部）  
井手浩二（いで整骨院）、山頭正代（あんじゅ鍼灸院）  
廣瀬典治、舘川大輔、中村裕也、甲斐明日美  
欠席：諸岡辰巳（長崎県鍼灸師会）

（敬称略）

1 開会の辞（司会 舘川大輔）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 舘川大輔）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

日頃より本校の教育方針に深いご理解とご支援をいただき感謝する。柔道整復科65名、健康鍼灸科7名、計72名がそれぞれの資格取得という目標に向かって研鑽している。健康鍼灸科は今年度の卒業生をもって、一時閉科となる。また平成27年10月に開設した日本語科は現在5期を迎えた。現在数は77名であり、大学や専門学校への進学に向けて頑張っており、10月には新生が入学する予定である。

教育課程編成委員会は、文部科学大臣から認定を受けている職業実践専門課程のある学校は必ず開催する必要がある。職業実践専門課程は、専門学校が関連のある施設や企業等と組織的に連携して、時代に即した、質の高い専門教育を行うことを目的としている。学校関係者評価委員会については、学校教育法において学校自己評価と学校関係者評価委員会の実施と公表が義務付けられている。関係施設等の管理職や役員の方々が学校関係者として、学校自己評価の結果を評価し、アドバイスをいただき、改善につなげることを目的とする。両委員会では、忌憚のない意見をお願いする。

公私ともにご多用な中、貴重な時間を頂戴することになり、誠に恐縮ではあるが、時代に沿った質の高い卒業生を社会に送り出すために、これからも教職員一同、尽力する。

#### 4 柔道整復科（学科長 舘川大輔）

##### （1）教育計画

平成29年度の報告から行う。

第26回柔道整復師国家試験の合格者について、全国では6,321名が受験し、3,690名が合格した。合格率は58.4%であった。佐世保校の結果は、23名が受験し、20名が合格した。合格率は86.9%であった。就職状況については、卒業生23名全員が就職している。

次に、平成30年度の報告を行う。

一つ目に、平成30年度の入学者数は定員30名に対して21名であった。内訳として、男性14名、女性7名。長崎県出身者18名、佐賀県出身者3名。

二つ目に、新入職員が入職した。こころ医療福祉専門学校の卒業生の湯村愛が入職している。また、篠原卓也が健康鍼灸科より柔道整復科に異動した。

三つ目に、平成30年度から新カリキュラムとなり、1日3コマの授業が始まっている。

四つ目に、予定ではあるが、9月22日と23日に臨床実習指導者講習会が長崎校で開催される。この講習会を受講した方には修了証が発行され、平成31年度からの本校学生の臨床実習の受け入れ先になってもらうことができる。

##### （2）質疑応答

井手) 新カリキュラムの導入で3コマ授業になり、13時から18時までと1日の授業時間が増えたことに対して、学生からはどのような反応があったか。

舘川) 2・3年生は1日3コマの日が週に2～3日ある。昨年度より授業が詰まった分、2コマで終わる日は、3年生は補講に充てることができ、2年生はアルバイト等に充てる時間が増えた。1年生は比較の対象はないが、アルバイト先で2・3年生と一緒にいる学生はうらやましがるが、大きな問題としては起きていない。早く帰りたい気持ちはあるようだ。

井手) 国家試験の合格率について、佐世保校と長崎校の結果に違いが出た要因は何か。

舘川) 長崎校は21名中15名が合格し、71.4%であった。佐世保校と長崎校では約15%の差が出た。要因として断言はできないが、佐世保校は3年生への補講体制を整えていることが考えられる。昨年度は3年次の5月から国家試験対策を実施したが、今年度は4月から国家試験対策を行っている。前期は18時から19時半に行うが、後期は18時から21時までを週に3～4回行う。その体制が結果につながったのだと考えられる。

- 田中) 長崎校の教員と補講の実施方法等についてのやり取りはあるか。
- 舘川) 佐世保校と長崎校の教員で会議をする際に、他学科も含め、報告を行う。その後、各科で会議も行っている。長崎校は学科長の異動もあったため、今後さらに密に連絡を取りながら切磋琢磨する必要がある。
- 廣瀬) 教員の指導ぶりを眺めていると、特に佐世保校の場合は小規模校のため、その有利性を有効に使っている。補講は徹底し、学生への質問にも懇切丁寧に対応している。このような日常の積み重ねが学生との信頼関係を築き、結果にもつながっているのではないか。
- 田中) 平成30年度の入学者が定員30名に達していないので、見直す点は何か。
- 舘川) 入学者は増えてきているが定員には達していないという点については、原因を追求中である。佐世保校に広報担当者が入ったのが昨年度の為、募集活動に関した不足しているデータを収集中である。
- 田中) 平成25年度から平成30年度にかけて、社会人と新卒の入学者数の比率が逆転している。平成27年度と平成28年度で差があるのはどういったことが考えられるか。
- 舘川) 社会人の入学者は脱サラして入学するケースが多いが、平成27年度と平成28年度の差は、景気が良く、会社を辞めないということが考えられる。平成29年度の新卒者数が減っているのは、進路選択が、就職か大学と二極化していることが考えられる。平成31年度入学生の獲得に向けて、高校生に対しては、ガイダンスやトレーナー活動、また新規取り組みのSNSの有効活用を通して、アプローチを行う。一方、社会人に対してのアプローチは難しいが、SNSや佐世保の映画館でのCM等の活動を継続し、認知を促す。今後、入学生や資料請求した方へ学校を知った経緯等の調査をしながら募集活動を行っていく。
- 田中) 就職について、県内や県外また職種別での進路状況はどうだったか。
- 舘川) 昨年度の就職者数は23名。そのうち国家試験合格者20名、不合格者3名である。不合格者3名は全員が柔整業界に就職しているわけではなく、1名が医療関係外、2名は整骨院に就職した。総合では整骨院に20名、整形外科に2名、介護関係に0名、医療関係外が1名という結果だった。個人経営に9名、多店舗展開に13名。長崎県15名、佐賀県3名、福岡県4名、東京都1名。佐世保市内13名、佐世保市外が10名。平成29年度の就職者は県外に多く出た印象がある。
- 田中) 県外の求人が多かったか。
- 舘川) 求人もあるが、こころ医療福祉専門学校や外部での就職セミナーに参加し、マッチングした場合もある。
- 田中) 昨年度以前のデータの分析も出来ればよい。

舘川) 次回までの課題とする。

井手) 学生数の減少が見受けられる。柔道整復業界の不正請求が話題にあるため、業界全体がそのような目で見られているような気がする。その波を受けて、入学希望者が減ってくるのではないか。学校存続という意味で今後大変になるのではないか。どういった策をとるか。

舘川) オープンキャンパスや入学後に志望動機を聞くと、自身が整骨院に通って憧れたという声が多く、またスポーツトレーナーになりたくて必要な資格を取りたいといった理由もある。入学したいという方は柔道整復師のことを良く思ってきてくれている方ばかりのため、今後も整骨院の先生方から協力をいただきながら、柔道整復師の仕事の良さを分かってもらい活動を広げていくことが学生募集につながると考えている。

田中) 第28回柔道整復師国家試験の基準について詳しく知りたい。また、今後の合格率の予想はどうか。

舘川) 現2年生が受ける第28回柔道整復師国家試験から、必修の問題数が30問から50問に増え、11教科が3教科に減りはするが、正答率は変わらず8割必要である。つまり、来年度は50問中40問の正解が必要となる。第13回柔道整復師国家試験から必修問題が加わり問題数が増えた際、合格率は激減しているため、合格率は厳しくなると予想する。対策として、現2年生は今年度後期から放課後補講を実施することとした。9月に試験を実施し、補講対象者を選定する。

田中) 補講対象者は成績不良者のみか

舘川) 任意で受けることもできる。目標点数は高めに設定し、2年生のうちにレベルを上げていくことを狙う。2年生から国家試験対策を始める形になるため、意識を国家試験に向けさせて、取り組んでいく。

田中) 3科目に絞られるので勉強しやすくなるのではないか。

舘川) 3教科に絞られることで、かなり深く勉強する必要がある為、メリットデメリットがある。学校側としては、国家試験対策をしやすくはなるが、深く勉強するという点では学生がついていけるか心配がある為、うまく指導していきたい。

## 5 健康鍼灸科 (学科長 中村裕也)

### (1) 教育計画

平成30年度第26回はり師きゅう師国家試験の全国平均は、はり師が67.0%、きゅう師が67.7%であった。本校の新卒と既卒を合わせた合格率は、はり師が91.

6%、きゅう師が90.9%であった。合格者数でいうと、はり師は13名中12名が合格、きゅう師は12名中11名が合格という結果であった。昨年度よりは合格率は上がっている。難易度は年々難しくなっているが、今年が最終学年となっているのでしっかり対応していく。

在校生に関して、閉科が決まったことによる学習環境の変化がないように、現状維持をし、学習環境の質の低下がないよう心掛けている。また、放課後補講を実施し、最終学年の合格率を上げる努力をしている。

合格していない卒業生の中で希望した者に対しては、模擬試験の受験や授業プリントの配布等の支援を行っている。来年度以降も佐世保校や長崎校で模擬試験の受験が出来る様に手配する予定である。

卒業生会に関して、就職して佐世保から離れた学生に参加してもらうのは難しいため、佐世保近辺にいる卒業生を主体に、卒業生会を組織化していく予定である。

健康鍼灸科は閉科が決まっているが、在校生や卒業生の支援等にも対応していきたい。

## (2) 質疑応答

山頭) 閉科が決まったことにより、国家試験に対するモチベーションが下がるのではないか。

中村) 閉科が決まってからの方が、絶対合格しないといけないという思いで、国家試験に対するモチベーションが上がっているようだ。クラスの雰囲気も良く、合格に向けてクラス全体でがんばろうという空気ができている。前回の国家試験の合格率が良かったのも、その流れがあったようだ。

山頭) 卒業生会に関して、今後も情報提供を継続して行ってもらいたい。

中村) 佐世保近辺にいる卒業生は、個人の勉強会では集まれるようになっている。ひとつの名簿に集め、卒業生間の連絡も出来るようにし、卒業生会につなげていきたい。

山頭) 卒業生会等で集まったときには学校の施設を使用できるようにしてもらいたい。

中村) 代表者等に手続きを行ってもらう必要はあるが、使用できるように対応する。

## 6 閉会の辞 (司会 舘川大輔)

以上で本委員会を終了する。